

# 津堅島農業再生・活性化プラン



令和2年3月

うるま市



# 目 次

	ページ
第1章 津堅島農業再生・活性化プランの趣旨	1
1. 目的	1
2. 位置付け	1
3. 計画期間	2
第2章 津堅島の農業の現状分析	3
1. 津堅島の概要	3
2. 津堅島農業の現状	7
3. 農業基盤整備状況等の調査	18
4. 津堅島の現状分析	19
5. 津堅島の重点課題	23
6. 品目別の課題	24
第3章 目標像・基本方向・施策展開の基本方針および施策内容	25
1. 目標像	25
2. 基本方向	25
3. 施策展開の基本方針および施策内容	26
4. 施策内容	28
5. 品目別の施策内容	37
6. 目標値	38
7. 推進方針	39
8. 津堅島農業再生・活性化プランのロードマップ	41



# 第1章 津堅島農業再生・活性化プランの趣旨

## 1 目的

優良農地が島の5割を占める津堅島は、津堅ニンジンの産地として農業が盛んな島であったが、生産農家の高齢化や担い手不足を要因とした生産量の減少や耕作放棄地が増加傾向にあることから、津堅島農業の再構築を目指すことを目的に、観光振興や安定化等の離島振興、農業参入意欲のある企業誘致等と連携したうるま市農業再生・活性化プラン（以降、本再生・活性化プランと呼ぶ）の策定するものとします。

## 2 位置付け

本再生・活性化プランは、うるま市の最上位計画である「第2次うるま市総合計画」の将来像『愛しています 住みよいまち うるま』の実現に向けて掲げられた9つの施策のうち、経済分野に関する「まちの活力を生み出す産業づくり」の実現に資するものとして策定します。また、農政課においては農業に特化した「うるま市農業振興ビジョン」が平成29年3月に策定され、『地域で育てる彩り豊かで魅力あふれる うるま市農業』を基本理念として掲げ、その実現に向けた津堅島における計画として、本再生・活性化プランを策定しています。

策定にあたっては、国や県の方針を踏まえ、「第2次うるま市総合計画」や関連計画の「うるま市農業振興ビジョン」、「うるま市観光振興ビジョン」、「うるま市産業振興計画」等と整合性を図りました。

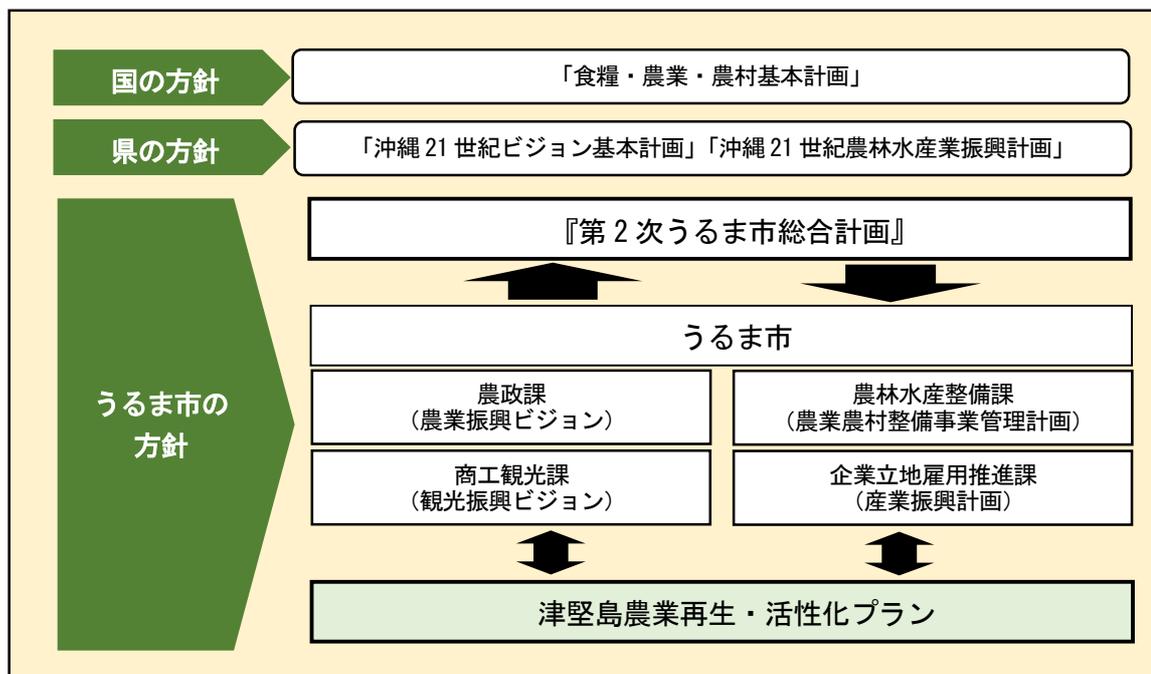


図2-1 津堅島農業再生・活性化プランの位置付け

### 3 計画期間

本再生・活性化プランの計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10年間とします。国や県の農業政策や国際情勢、社会情勢等の変化等に柔軟に対応するため、中間年度となる5年後を検証年度とし、施策等の見直しや変更を行います。

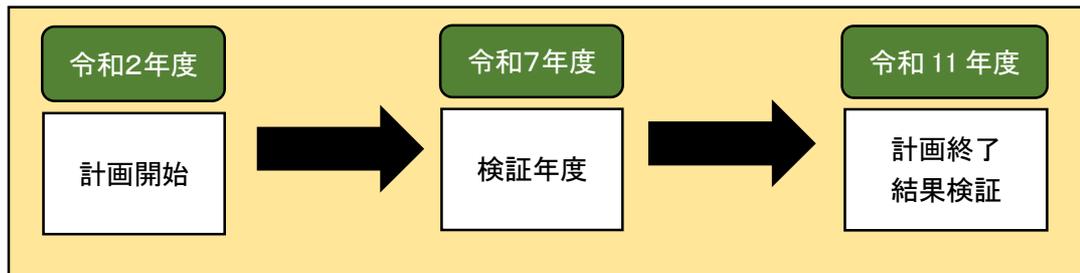


図 3-1 うるま市農業再生・活性化プランの計画期間

## 第2章 津堅島の農業の現状分析

### 1 津堅島の概要

#### (1) 位置と地勢

津堅島は沖縄本島中部勝連半島の南東約 5km の中城湾の沖合に位置しており、総面積は 1.88km<sup>2</sup> である。津堅島へは船での行き来となっています。

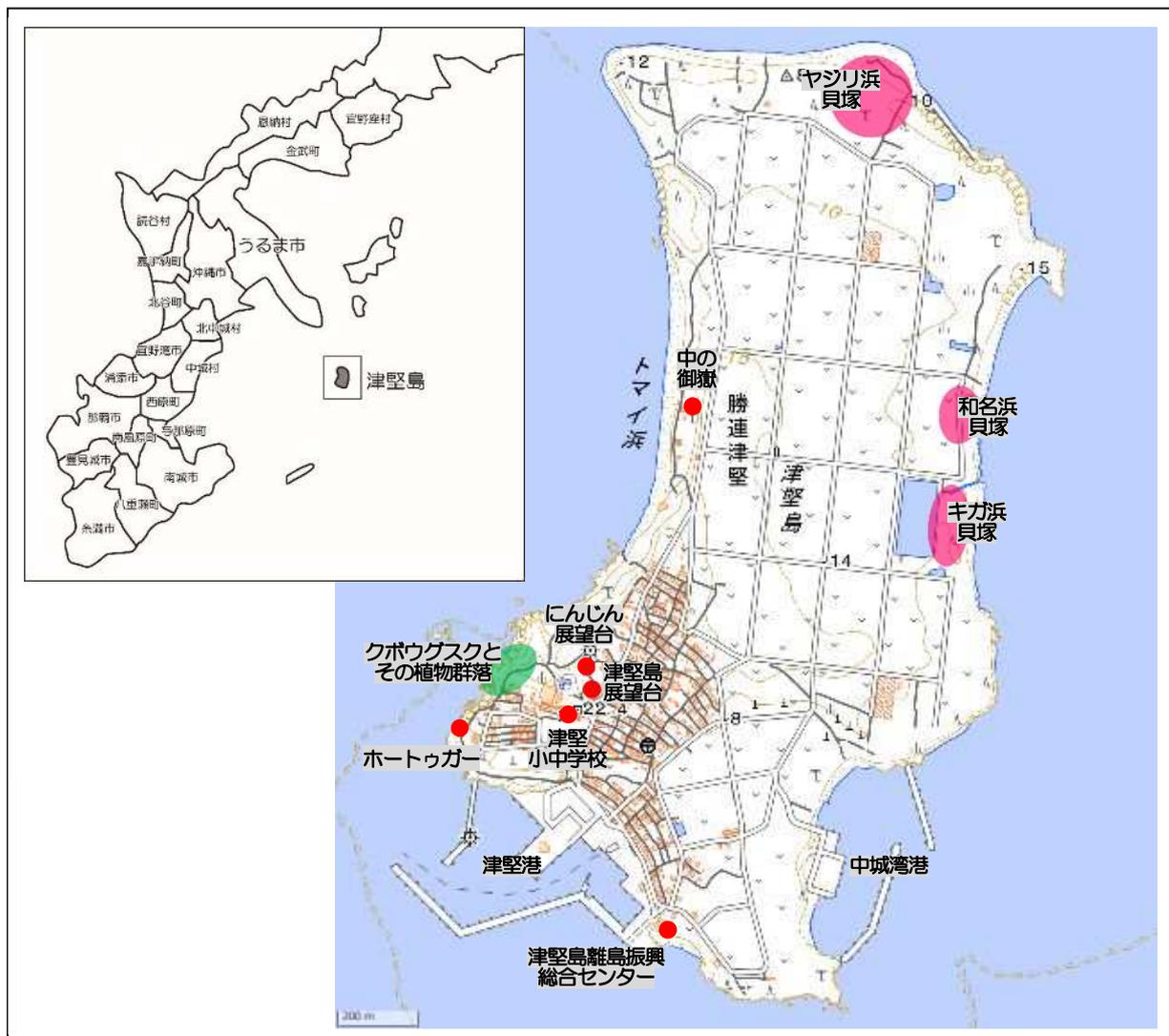


図 1-1 津堅島の位置と主な施設

## (2) 人口・世帯数

津堅島の人口・世帯数は、ともに減少傾向で推移しています。

また、うるま市全体に占める津堅島の人口・世帯数の割合も減少傾向で推移しています。

表 1-1 沖縄県、うるま市、津堅島の人口・世帯数の推移

単位：人口(人)、世帯数(戸)

項目		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
沖縄県	人口	1,273,440	1,318,220	1,361,594	1,392,818	1,433,566
	世帯数	404,253	446,286	488,368	520,191	560,424
うるま市	人口	105,228	109,992	113,535	116,979	119,019
	世帯数	30,347	33,592	37,212	38,344	42,389
津堅島	人口	554	531	485	470	391
	構成比(%)	0.53	0.48	0.43	0.40	0.33
	世帯数	212	207	210	193	189
	構成比(%)	0.70	0.62	0.56	0.50	0.45

資料：国勢調査

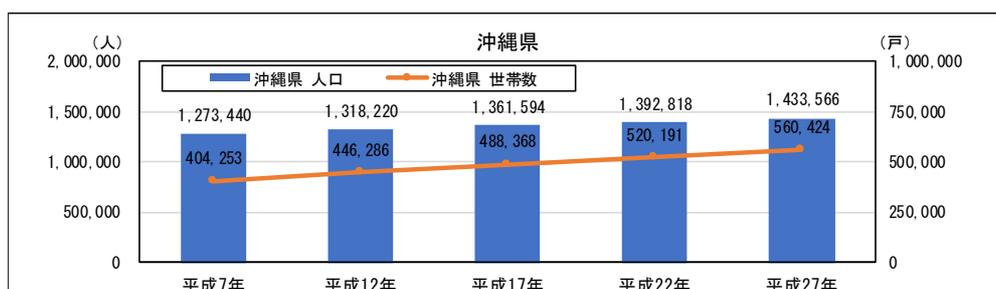


図 1-2 沖縄県の人口・世帯数の推移

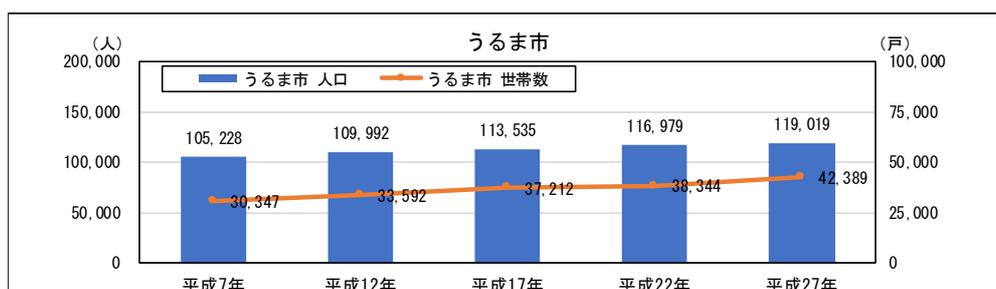


図 1-3 うるま市の人口・世帯数の推移

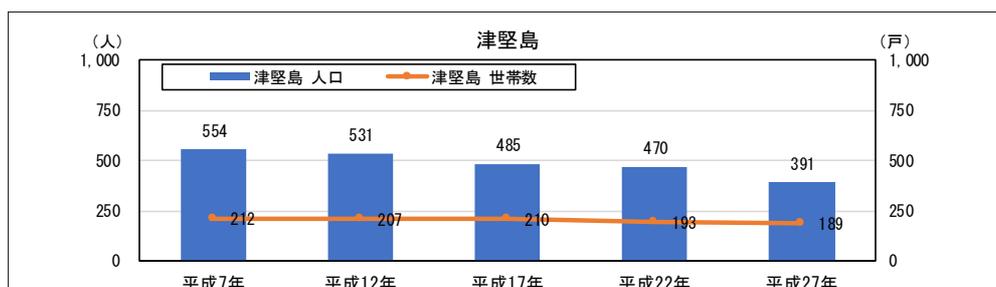


図 1-4 津堅島の人口・世帯数の推移

### (3) 産業別就業人口

津堅島の産業別就業人口は、平成22年(177人)から平成27年(147人)の5年間で約17%減少しています。

特に一次産業人口は、平成22年(130人)から平成27年(99人)の5年間で約24%減少しています。

表 1-2 うるま市の産業別人口の推移

単位：人口(人)

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
うるま市	第1次産業	3,206	3,206	2,751	2,393	1,814
	第2次産業	10,591	10,591	10,510	9,340	8,076
	第3次産業	28,080	28,080	30,523	31,854	29,626
	総数			43,784	43,587	42,823

資料：国勢調査

※総数には「分類不能の産業」を含むため、各産業の合計とは必ずしも一致しない

表 1-3 津堅島の産業別人口の推移

単位：人口(人)

		平成22年	平成27年
津堅島	第1次産業	130	99
	第2次産業	1	0
	第3次産業	46	44
	総数	177	147

資料：国勢調査

※総数には「分類不能の産業」を含むため、各産業の合計とは必ずしも一致しない

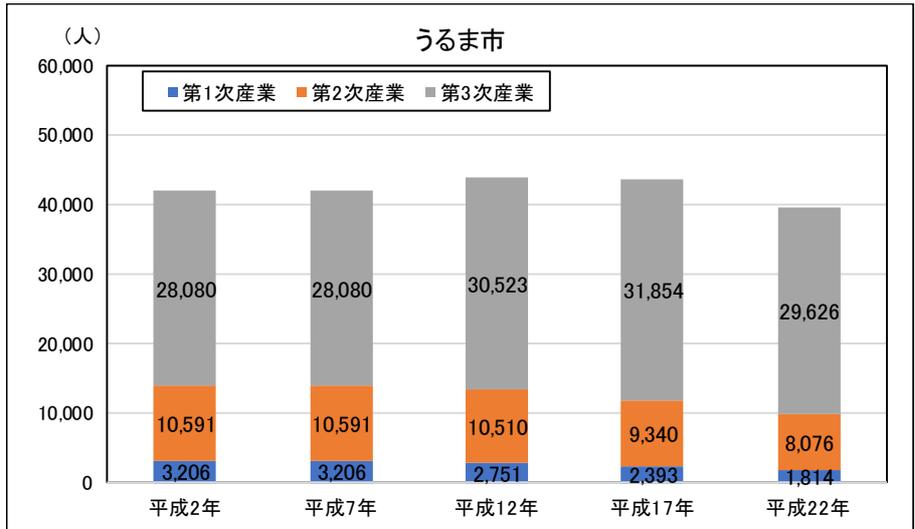


図 1-5 うるま市の産業別人口の推移

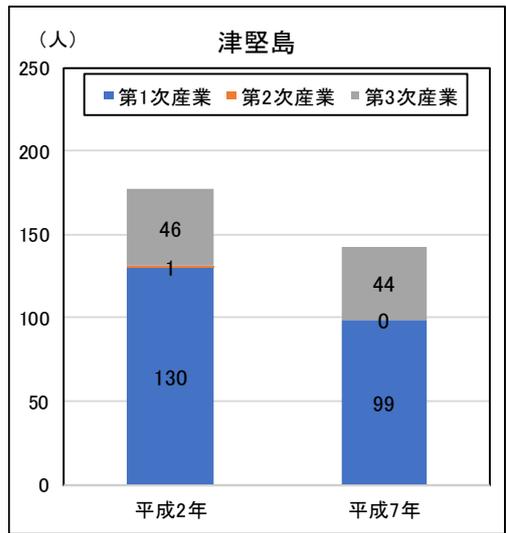


図 1-6 津堅島の産業別人口の推移

## 2 津堅島農業の現状

### (1) 経営耕地面積

津堅島の経営耕地面積は、減少傾向で推移しており、平成22年(5.172ha)から平成27年(0.932ha)までの5年間で82%減少しています。

表 2-1 沖縄県、うるま市、津堅島の経営耕地面積の推移

単位：面積(ha)

		平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
田	沖縄県	722	633	614	579
	うるま市	12	5	4	3
	津堅島			-	-
畑	沖縄県	27,988	23,416	22,437	22,760
	うるま市	916	521	481	387
	津堅島			5.172	0.932
樹園地	沖縄県	1,970	2,000	1,294	1,450
	うるま市	44	31	20	17
	津堅島			-	-
経営耕地 総面積	沖縄県	30,680	26,046	24,345	24,789
	うるま市	972	557	505	407
	津堅島			5.172	0.932

資料：農林業センサス（農林水産省）、離島関係資料（沖縄県）

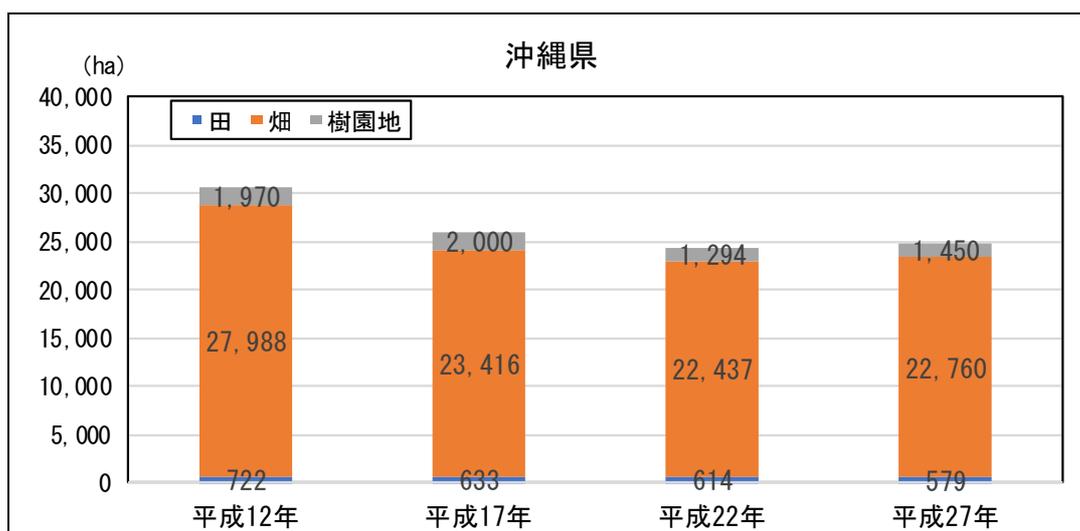


図 2-1 沖縄県の経営耕地面積の推移

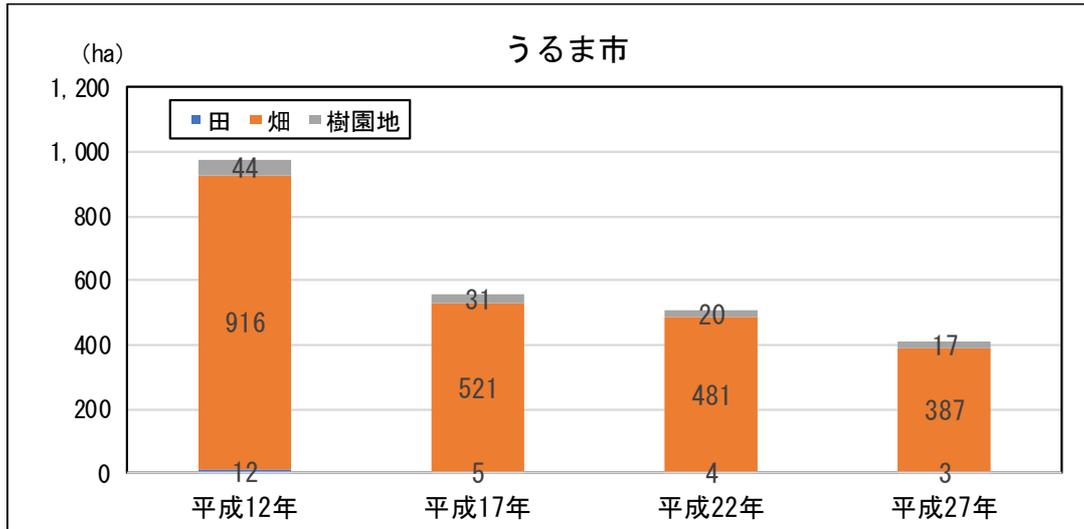


図 2-2 うるま市の経営耕地面積の推移

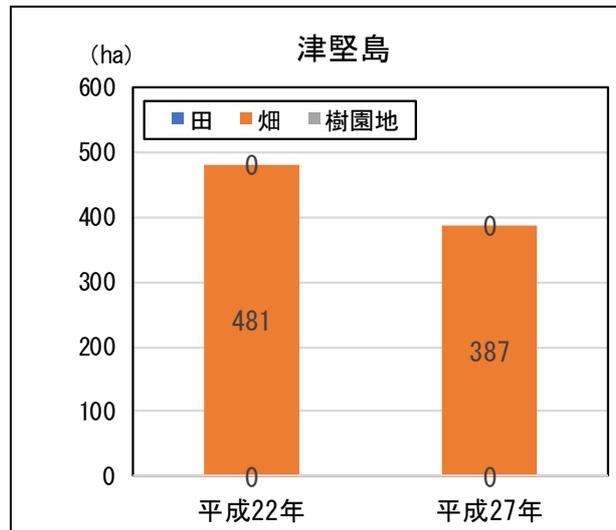


図 2-3 津堅島の経営耕地面積の推移

## (2) 販売・自給的農家数

津堅島の農家数（販売農家）は、平成22年41戸から平成27年8戸へ大きく減少しています。

沖縄県の農家数（販売・自給的農家）は、平成2年38,512戸から平成27年20,056戸へ減少し、販売農家は平成2年29,351戸から平成27年14,241戸へ減少しており、うるま市の農家数（販売・自給的農家）は、平成2年3,981戸から平成27年939戸へ減少し、販売農家は平成2年2,476戸から平成27年374戸へ減少しており、沖縄県、うるま市ともに減少傾向にあります。

表2-2 沖縄県、うるま市、津堅島の農家数（販売・自給的農家）の推移

単位：世帯数（戸）

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
沖縄県	総農家	38,512	31,588	27,088	24,014	21,547	20,056
	販売農家	29,351	23,996	20,088	17,153	15,123	14,241
	自給的農家	9,161	7,592	7,000	6,861	6,424	5,815
	土地持ち非農家	10,145	13,709	14,385	13,866	14,560	12,027
うるま市	総農家	3,981	2,906	2,244	1,744	1,433	939
	販売農家	2,476	1,649	1,122	775	659	374
	自給的農家	1,505	1,257	1,122	969	774	565
	土地持ち非農家	-	-	-	1,964	1,846	1,415
津堅島	販売農家					41	8

資料：農林業センサス（農林水産省）、離島関係資料（沖縄県）

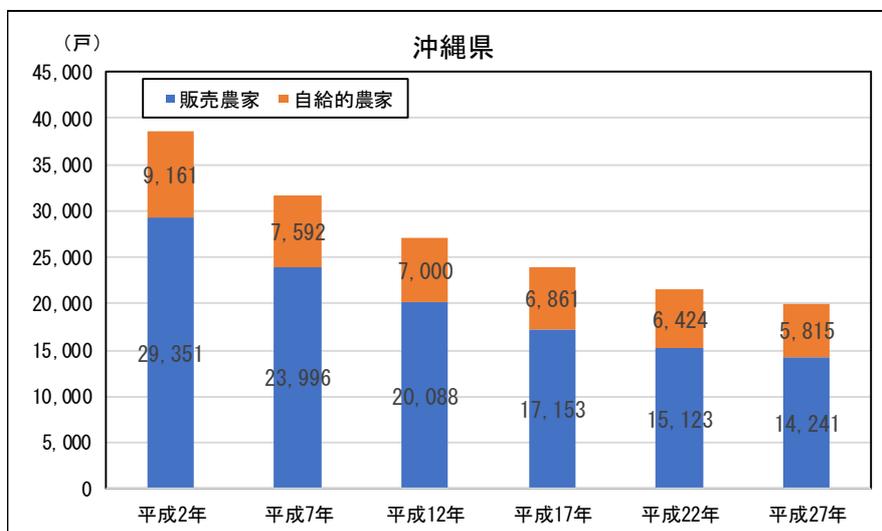


図2-4 沖縄県の農家数（販売・自給的農家）の推移

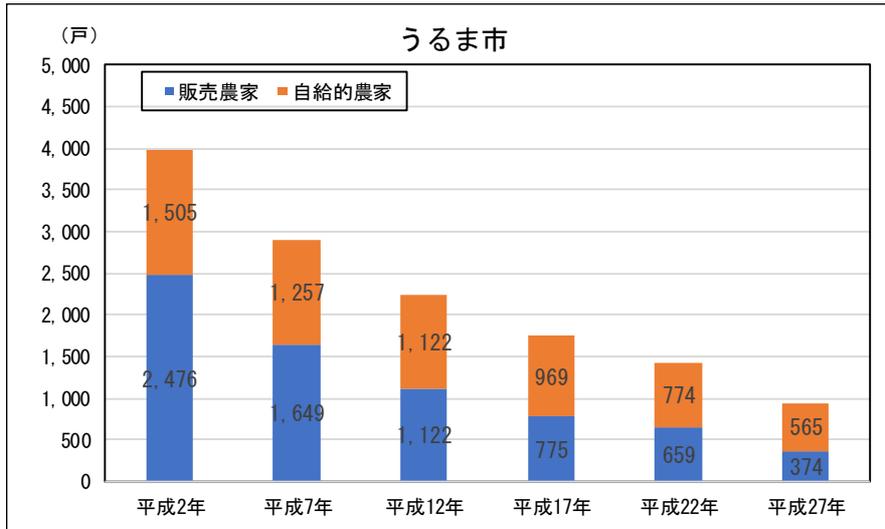


図 2-5 うるま市の農家数 (販売・自給的農家) の推移

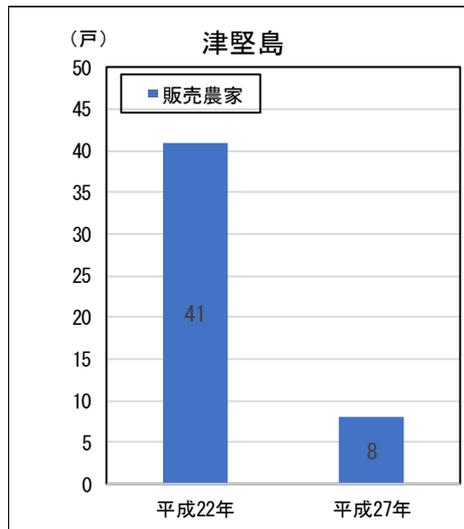


図 2-6 津堅島の農家数 (販売農家) の推移

### (3) 専業・兼業別農家数

津堅島の専業農家数は平成22年27戸から平成27年7戸へ減少しています。また、兼業農家数も、平成22年14戸から平成27年1戸へ大きく減少しています。

表 2-3 沖縄県、うるま市、津堅島の専兼業別農家数の推移（販売農家）

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
沖縄県	販売農家	29,351	23,996	20,088	17,153	15,123	14,241
	専業農家	9,255	8,532	7,939	7,814	7,594	7,497
	兼業農家	20,096	15,464	12,149	9,339	7,529	6,744
	第1種	6,401	5,303	4,570	3,482	2,728	1,889
	第2種	13,695	10,161	7,579	5,857	4,801	4,855
うるま市	販売農家	2,476	1,649	1,122	775	659	374
	専業農家	579	466	367	343	341	216
	兼業農家	1,897	1,183	755	432	318	158
	第1種	401	357	286	148	124	64
	第2種	1,496	826	469	284	194	94
津堅島	販売農家					41	8
	専業農家					27	7
	兼業農家					14	1
	第1種					5	1
	第2種					9	-

資料：農林業センサス（農林水産省）、離島関係資料（沖縄県）

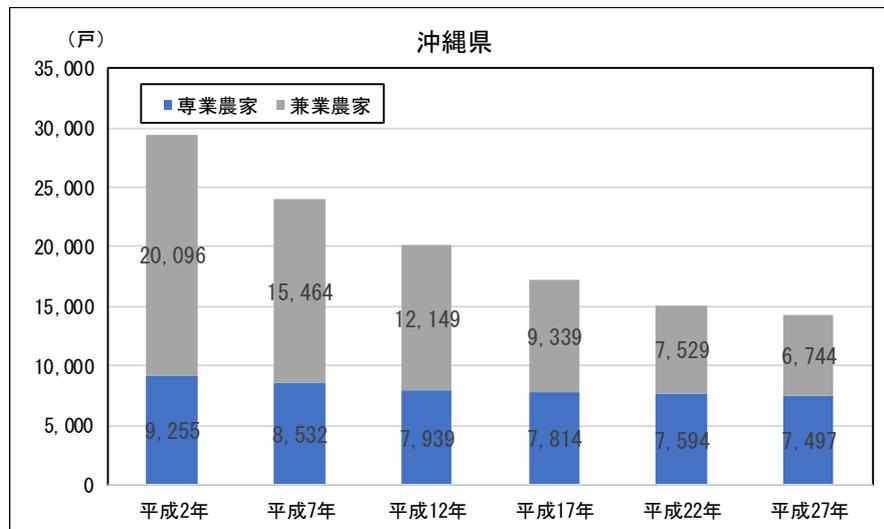


図 2-7 沖縄県の専兼業別農家数の推移（販売農家）

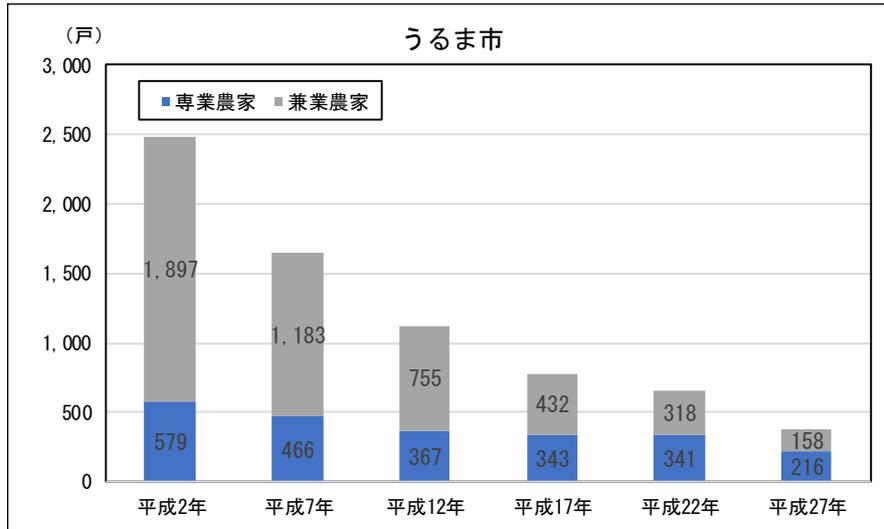


図 2-8 うるま市の専業別農家数の推移 (販売農家)

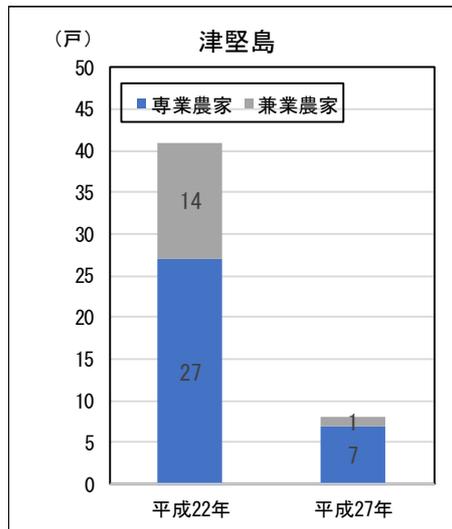


図 2-9 津堅島の専業別農家数の推移 (販売農家)

(4) 年齢別農業就業人口

津堅島の年齢別農業就業人口の割合をみると、平成22年には65歳以上が53.9%と5割以上を占めており、平成27年には65歳以上が75%とさらに高くなっています。

表 2-4 沖縄県、うるま市、津堅島の年齢別農業就業人口（販売農家）の推移

単位：人口(人)

項目	総数	性別		15～29歳	30～59	60～64	65歳以上	
		男	女					
平成2年	沖縄県	60,420	29,313	31,107	4,714	25,343	9,480	20,883
	うるま市	6,261	2,872	3,389	591	2,232	946	2,492
平成7年	沖縄県	49,354	25,468	23,886	2,886	16,519	8,879	21,070
	うるま市	4,678	2,388	2,290	316	1,385	822	2,155
平成12年	沖縄県	34,005	18,705	15,300	1,989	10,286	5,158	16,572
	うるま市	2,217	1,227	990	159	664	335	1,059
平成17年	沖縄県	28,224	16,527	11,697	1,339	8,553	3,079	15,253
	うるま市	1,446	866	580	79	439	184	744
平成22年	沖縄県	22,575	14,194	8,381	547	7,042	2,657	12,329
	うるま市	1,173	738	435	40	363	128	642
	津堅島	89	58	31	1	34	6	48
	県内割合	0.39	0.41	0.37	0.18	0.48	0.23	0.39
	市内割合	7.6	7.9	7.1	2.5	9.4	4.69	7.48
平成27年	沖縄県	19,916	12,477	7,439	616	5,396	3,143	10,761
	うるま市	625	409	216	19	176	83	347
	津堅島	16	11	5	0	3	1	12
	県内割合	0.08	0.09	0.07	0.00	0.06	0.03	0.11
	市内割合	2.6	2.7	2.3	0.0	1.7	1.20	3.46
	島内割合	100	68.8	31.3	0.0	18.8	6.3	75.0

資料：農林業センサス（農林水産省）、離島関係資料（沖縄県）

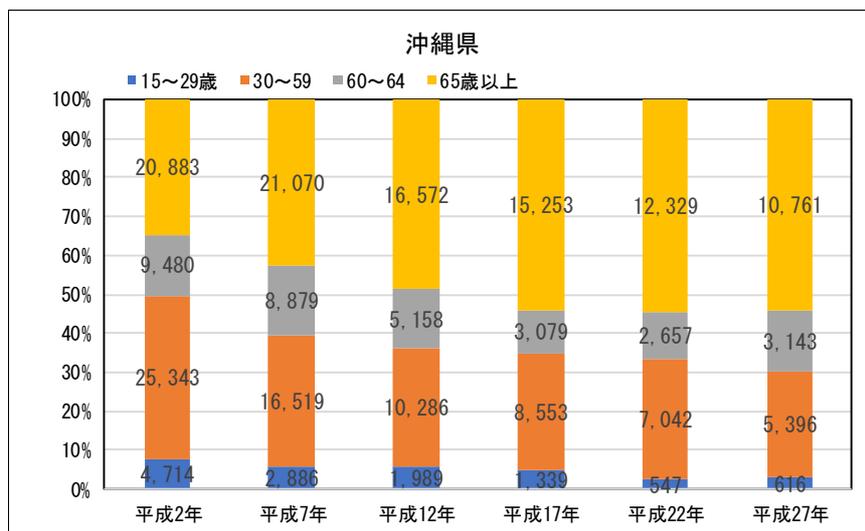


図 2-10 沖縄県の年齢別農業就業人口（販売農家）の推移

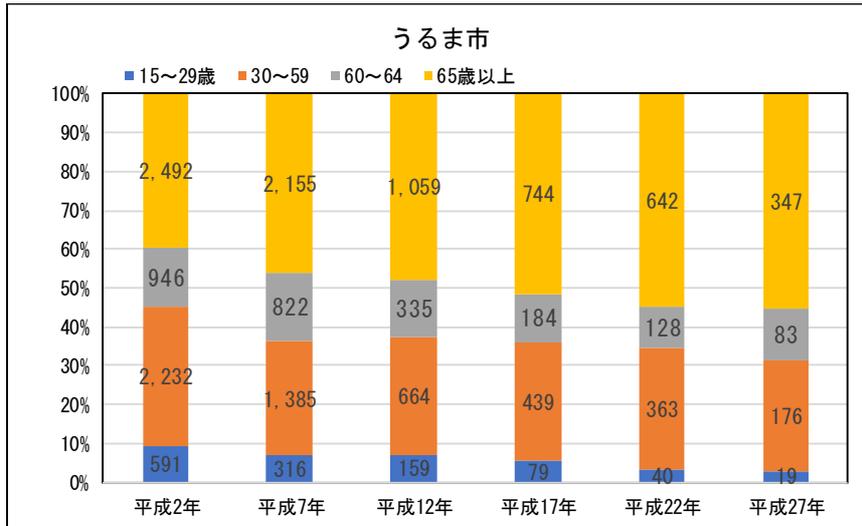


図 2-11 うるま市の年齢別農業就業人口（販売農家）の推移

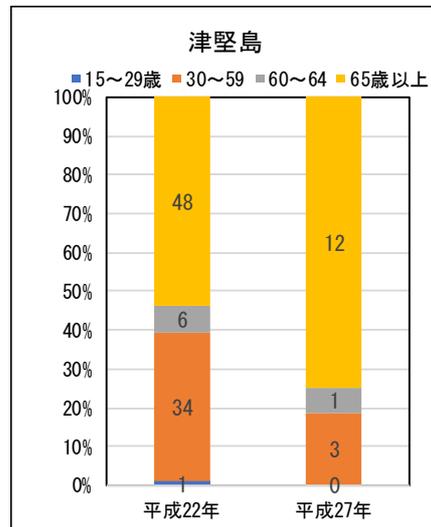


図 2-12 津堅島の年齢別農業就業人口（販売農家）の推移

(5) 作物の類別作付経営体数

津堅島の作物の類別作付経営体数をみると、平成22年43経営体、平成27年9経営体となっており、作物の類別では、いも類が平成22年4経営体、平成27年4経営体と変わらず、野菜類が平成22年43経営体、平成27年9経営体と大きく減少し、かんしょが平成22年4経営体、平成27年4経営体と変わっていません。

表 2-5 津堅島の販売目的で作付け(栽培)した作物の類別作付経営体数の推移

単位：経営体数（経営体）

	農業経営体	いも類	野菜類	かんしょ
平成22年	43	4	43	4
平成27年	9	4	9	4

資料：離島関係資料（沖縄県）

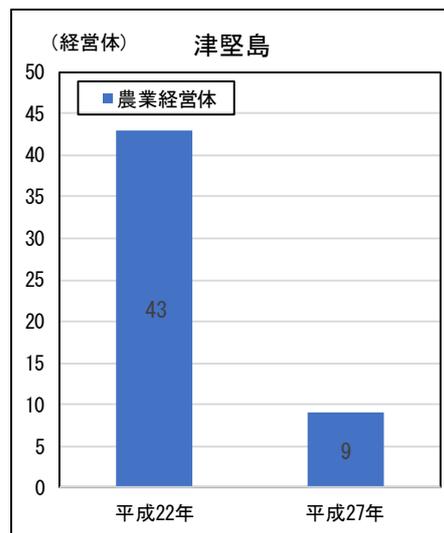


図 2-13 津堅島の販売目的で作付け(栽培)した作物の類別作付経営体数の推移

(6) 作物生産量、出荷金額、生産面積

津堅島のニンジンの生産量は平成10年518トンから平成30年60トンへ大きく減少しています。また、出荷金額も平成10年47,812千円から平成30年6,130千円へ、生産面積も平成10年25haから平成30年7.7haへ大きく減少しています。

表 2-6 津堅島の生産量、出荷金額、単価、面積（ニンジン）

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
生産量	518	557	472	341	534	339	474	507	398	259	401	329	330	338	191	342	138	191	145	132	60
出荷金額	47,812	57,244	29,241	36,882	42,060	38,611	38,452	46,139	34,818	23,222	43,541	33,493	29,871	34,654	16,202	32,050	9,957	17,199	13,176	11,991	6,130
単価	92	103	62	108	79	97	81	89	87	90	109	102	91	103	85	94	72	90	91	91	91
面積	25	25	25	25	25	26	28	28	28	27	25	29	30	30	30	20	20	17	10	10.6	11.6

単位：生産量（トン）、出荷金額（千円）、単価（円）、面積（ha）  
資料：JA津堅

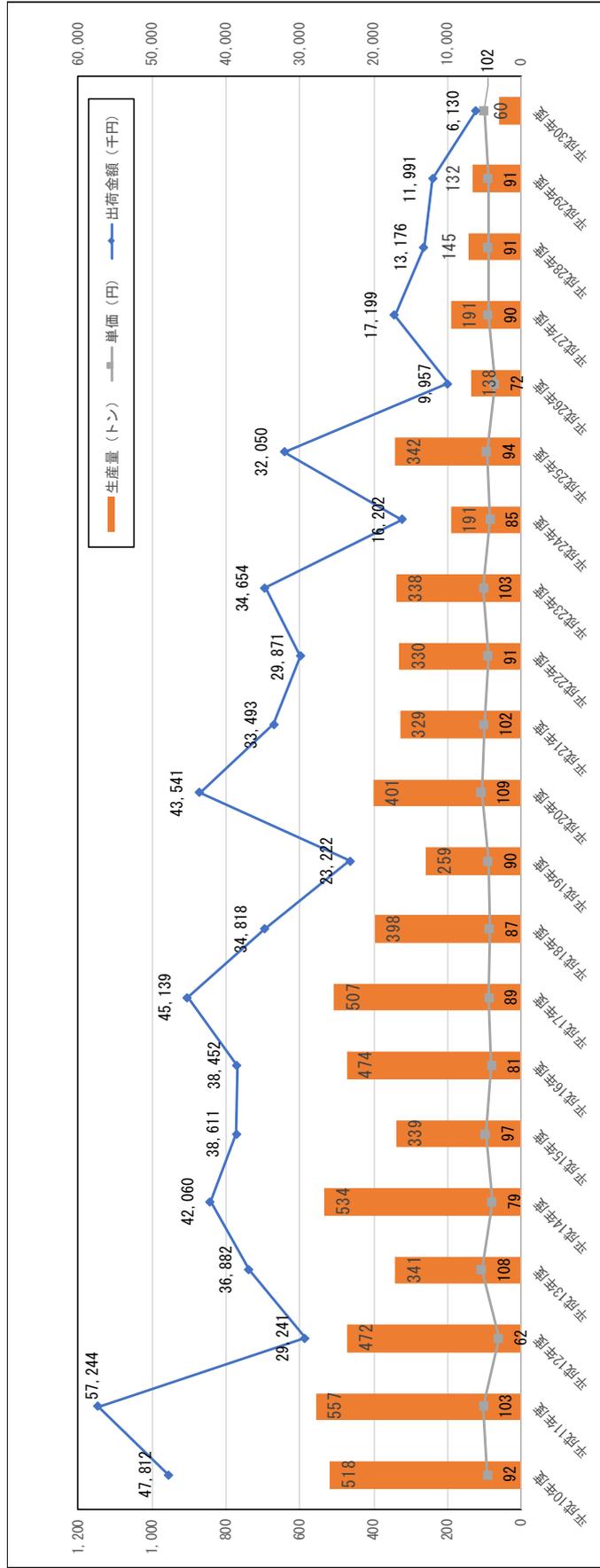


図 2-14 津堅島の生産量、単価、出荷金額（ニンジン）

(7) 畜産の飼養戸数・飼養頭数等

津堅島では畜産は行っていません。

(8) 拠点産地・野菜指定産地

うるま市は拠点産地として、さやいんげん、オクラ、にんじん、中晩柑類（天草）、マンゴー、小ギク、洋ラン、かんしょ、グァバ（具志川）の9種類が認定されています。

また、津堅島は野菜指定産地として、冬にんじんが指定されています。

表 2-7 うるま市の拠点産地認定状況

野菜	さやいんげん
	オクラ
	にんじん
果樹	中晩柑類（天草）
	マンゴー
花き	小ギク
	洋ラン
特用作物	かんしょ
	グァバ（具志川）

資料：沖縄県 HP（農林水産部中部農業改良普及センター）

表 2-8 津堅島の野菜指定産地状況

対象品目	指定年月日	解除年月日	備考
春夏にんじん	昭和 62 年 9 月 28 日	平成 17 年 2 月 18 日	勝連地区
冬にんじん	昭和 62 年 9 月 28 日		勝連地区

資料：沖縄県 HP（農林水産部園芸振興課）

(9) 法人数

津堅島の法人は、2016 年現在、合同会社が 2 法人です。法人化していない家族経営体が 30 となっています。（資料：JA 提供）



## 4 津堅島の現状分析

津堅島の農業について、既存資料、アンケート調査、農業関連団体等からのヒアリング結果を集約した課題についてSWOT分析により分析を行いました。

SWOT分析とは組織等が運営戦略を策定する際に環境を分析する手法です。内部環境とその組織等を取り巻く外部環境から環境分析を行うもので、強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)の頭文字を取ってSWOTと呼びます。

内部環境は、組織等の運営資源について強み(S)と弱み(W)を識別することです。また、外部環境は、組織等が直面する環境について機会(O)となる要因と脅威(T)となる要因を識別することです。

### (1) SWOT分析の結果

津堅島について、SWOT分析により内部環境の「強み」と「弱み」、外部環境の「機会」と「脅威」に分類して次に整理しました。

表 4-1 津堅島に関するSWOT分析結果(強み)

	項目	内部環境	外部環境
強み	営農	<p>■ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニンジン栽培環境を整えれば順調に生育するため、比較的容易に営農が可能である</li> <li>・ニンジンの収穫の機械化には畝立てが必要であり、乾燥化が課題であったが、農業用水の確保により機械化が可能となり軽労化される</li> <li>・法人が島内で営農し、島内住民を雇用している</li> <li>・法人が島内での農業に投資しており、今後、大規模に営農していく方針である</li> <li>・法人の試験栽培でのニンジンのカロチン含有量が非常に多く、機能性による差別化が期待できる</li> <li>・津堅島のニンジンは県内での知名度は高く、青果でもよく売れる</li> <li>・ニンジンは出荷時に水洗いの必要がなく、パレット出荷で効率的である</li> <li>・ため池等の完成で農業用水が確保され、かん水が容易となり、収量と品質の向上が図られる</li> <li>・緑肥を植える習慣がある</li> <li>・アリモドキゾウムシが概ね根絶したので、甘藷の栽培を拡大することができる</li> </ul> <p>■アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きているうちは農業を続けたいと考えている人が多い</li> <li>・農業用水の整備、機械化が進むことで、儲かる農業が可能になることへ関心をもっている人が一定数いる</li> </ul> <p>■モデル圃場での検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥の投入、種子のコーティングや散水、肥料の種類、病害虫管理等を適切に行うことで、反収や秀品率が大きく向上することが推察される</li> </ul>	<p>■ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAが津堅島の農業者へ営農指導するとともにモデルほ場での栽培試験等に協力している。</li> <li>・読谷村で選果が行われるため、効率的である。</li> <li>・有用微生物群をテーマに商品開発や観光など全体的な取り組み意思のあるホテルがある</li> <li>・甘藷は加工原料としてのニーズが高く、特に、冬場は品薄になる</li> </ul> <p>■アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島出身者で農業用水の整備、機械化が進むことで、儲かる農業が可能になることへ関心をもっている人が一定数いる</li> </ul>
	生産基盤整備	<p>■ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島全体で約80haの土地改良された農地があり、効率的に農業が行える基盤がある</li> <li>・2号ため池の完成、配水管の敷設、数年後に1号ため池の漏水対策工事の完成、ファームボンドの整備等で農業用水が容易に十分に利用可能となる</li> </ul>	<p>■ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県農林水産部は、営農・整備の両面から協力・支援している</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平張施設が整備される</li> <li>・耕作放棄地の集積化事業が行われている</li> <li>・耕作放棄地対策の重点化エリアを設定し、営農の効率化につなげることが可能となる</li> <li>・保安林や防風林があり、台風や冬季季節風から守られる農地がある</li> </ul>	
加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・にんじんサイダーは一定の知名度があり、この業者のニンジンパウダーは他の商品の加工原料としても活用されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・小売りではカット野菜や冷凍野菜、業務用ではペースト、粉体、冷凍野菜、皮むきなどへのニーズが高まっている</li> <li>・島内の出荷、保管、加工施設を改修、拡張し、物流、加工機能と共に観光交流機能を付加することが可能である</li> </ul>
流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・本島側に引き取り手がいれば、津堅から船に乗せるだけで出荷できる</li> <li>・沖縄本島内では、津堅ニンジンが美味しいという評価が浸透しており、一定のブランド化ができている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・県内小売業等の複数が協力的である</li> <li>・津堅で営農している法人は関連会社に、青果専門店を有している</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・通年展開できる観光資源(多様な農業体験、文化体験、星空、もずく、映えスポット)がある</li> <li>・もずくはフコダインが多く含まれ、がん予防や免疫力アップが期待できる</li> <li>・過去に「津堅まつり」「ガイドツアー」を実施した実績がある</li> <li>・非常にきれいなビーチと、観光商品を運営できる事業者が存在する</li> <li>・民謡や三線などの聖地となる可能性がある</li> <li>■アンケート</li> <li>・観光業が盛んになり、観光客が増加することについては、島が活性化して良いと考えている割合が高い</li> <li>■モニターツアー</li> <li>・自然を楽しむことができ、自然以外にも歴史(平和教育)の島である。</li> <li>・夏の海に加え、冬場の農業体験を加えることで、年間通した観光メニューが開発できる</li> <li>・ランチメニューは島のものを使っていたことが評価でき、海産物や野菜が島でとれたことの説明があり良かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・島在住者のひとは、ガイドの育成による着地型観光商品造成や実施に積極的である</li> <li>・島在住者のひとり農業と連携した体験プログラムを構想している</li> <li>・手つかずの自然を資源にした観光・文化体験へのニーズは高まっている</li> <li>・本事業関係者に6次産業化と着地型観光による地方創生のノウハウを有する者がいる</li> <li>・医療ツーリズムの市場規模はインバウンドだけで年間 5000 億円に達する</li> <li>・島出身者、観光業が盛んになり、観光客が増加することについては、島が活性化して良いと考えている割合が高い</li> </ul>
島全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・島の未来を考える人材が存在する</li> <li>・「本島からの通勤」による関係人口増加を図りやすい距離にある</li> <li>■アンケート</li> <li>・将来、自分の家が空き家になる際には、貸すことも可能と考えている人が一定数いる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・島に既に投資する民間企業が2社あり、両者とも中核事業として医療分野の事業を行っている</li> <li>■モニターツアー</li> <li>・島外から通勤することも可能である</li> </ul>

表 4-2 津堅島に関するSWOT分析結果（弱み）

	項目	内部環境	外部環境
弱み	営農	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既存資料</li> <li>・経営耕地面積が大きく減少</li> <li>・販売農家数が、専業農家数、兼業農家数はともに減少している。</li> <li>・農業就業人口は65歳以上が12名で75%を占め、高齢化が著しい</li> <li>・法人は株式会社が1、合名・合資会社が2の計3法人にとどまる</li> <li>・耕作放棄地の面積が大きくなっている</li> <li>・耕作放棄地がギンネム林化している箇所がある</li> <li>・耕作放棄地の解消に向けて取り組んでいるが、地権者が非常に多く、不明な事例も多々ある</li> <li>■ヒアリング</li> <li>・これまでは雨待ち農業だったため効率が悪く、収量や品質が低く、安定しない</li> <li>・ニンジンの収量が10a当たり1t程度しかない</li> <li>・ニンジンの発芽率を高めるために、播種はバラマキによって行われ、その結果、間引き作業が生じ、農作業の効率化ができていない。</li> <li>・収穫についても機械化できていない</li> <li>・これまでは農業用水が不十分だったためニンジン等の発芽率が悪くなるがあった</li> <li>・規格外品（B級品）が約3割生じており、秀品率が低い</li> <li>・台風と冬季季節風の影響が大きく受ける</li> <li>・機械化が大部分でできていない</li> <li>・機能性や糖度などの科学的分析が行われておらず「真のブランド化」ができていない</li> <li>・ニーズに対応できる生産量を確保できていない</li> <li>・品目別に効率化に向けた課題がある</li> <li>■アンケート</li> <li>・土地持ち非農家の割合が高い</li> <li>・台風の影響や機械化に対して不便さを感じている。</li> <li>・機械購入等の補助や水の十分な確保、作業委託を要望している</li> <li>・後継者がいない割合が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・青果へのニーズは、小売・業務用とも低下している</li> <li>■アンケート</li> <li>・島出身者の島に戻らない理由は、島での収入が少ないことを理由に上げた割合が高い</li> </ul>
	生産基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・1号ため池が漏水している</li> <li>・仮設の排水管の水圧が弱く、スプリンクラーでの散水は難しい</li> <li>・収益性を高めるためには安定的な栽培が可能となる施設栽培が必要</li> <li>・施設栽培が可能な施設が放置されており、有効活用されていない</li> <li>・農業用水のpHと塩分が高い</li> <li>・ため池でアオコが発生しており、キリコ等に目詰まりが発生しやすい</li> <li>・ため池と配水管の敷設でキリコ等の需要が高まっているが、導入に躊躇する農家がいる</li> </ul>	
	加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>・ブランド力のある6次化商品がない</li> <li>・「津堅にんじん」を象徴するアイコンがない</li> <li>・島に規格外品が残らず、残っても有効活用できていない</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>島の加工設備が老朽化して使用できず、収益性のある加工品製造ができない。また、保健所の許可が下りる加工設備もない</li> </ul>	
流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>船舶での輸送料金が高額なため、作物や堆肥、燃料等の運搬費がかさむ</li> <li>島しょのため荒天時の安定供給が難しい</li> <li>島に洗浄や選果ができる施設がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>自前の流通がないことが加工品展開の足かせになっている</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>夏場（海の季節）以外の観光が弱い</li> <li>島内の観光事業者が島外への営業や海の季節以外の商品造成にあまり積極的ではない</li> <li>サイン、看板、ホームページ、散策路、展望台などが整備されておらず、老朽化しており観光資源として機能していない</li> <li>■モニターツアー</li> <li>島の良さの情報発信が十分にできていない。</li> <li>島で働くためには、フェリーの運航を始発と最終便について早めたり、遅くしたりするなどの工夫が必要</li> <li>津堅ニンジン、津堅カボチャ、津堅タマネギ等、ブランド化がなされていない</li> <li>海の見えるテラスや島しょ部らしい内装の空間づくりで付加価値があがるので、将来的には取組が必要</li> <li>飲食メニューで客単価を上げる工夫が必要で、そうすることで所得向上を図れる</li> <li>海ツアーと陸ツアーを連携させる必要がある</li> <li>人材の育成や組織体制に取り組む必要がある</li> <li>キャロットアイランドをうたっているが島内でニンジンを実感することができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>各事業者が連携していないため島外から見て情報収集やビジネスを行いにくい島という印象がある</li> <li>沖縄県その他農村部では修学旅行生を受け入れる民泊・農泊が盛んで副収入として経済効果が大きい（石垣島や宮古島等200万円以上も）</li> </ul>
島全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既存資料</li> <li>人口・世帯数が減少傾向にある</li> <li>■ヒアリング</li> <li>島が一丸となって取り組む姿勢に乏しい</li> <li>居住に適した空き家がない</li> <li>多数を占める50代以上が島の未来への関心が低い</li> <li>漁業者や観光事業者など主たる産業の担い手は島外からの通勤者が多い</li> <li>■モニターツアー</li> <li>トイレが決定的に不足している</li> <li>島へ行った後の2次交通が自転車しかない</li> <li>島の情報をワンストップで観ることのできるホームページがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヒアリング</li> <li>高齢化と人口減少が閉塞感や努力する人の徒労感につながっている</li> </ul>

## 5 津堅島の重点課題

津堅島の強みと弱みなどから、重点課題を集約すると、効率的・持続的な農業基盤環境の整備、収入の拡大と多様化、観光業等との連携、憧れられる島づくりの4つになります。これらの課題を解決する施策を展開することで津堅島の農業再生・活性化が図られていくことになります。

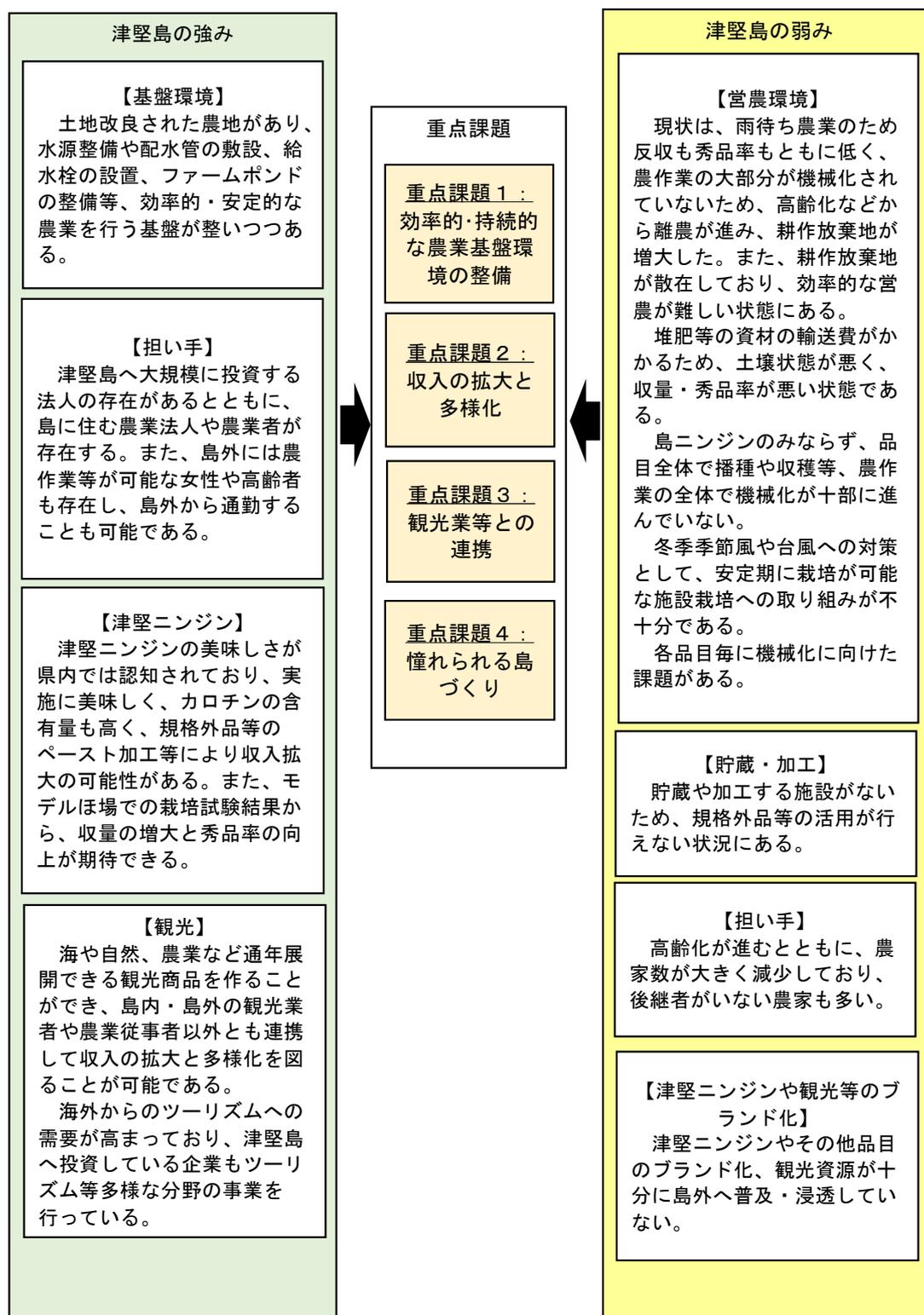


図 4-1 津堅島における重点課題

## 6 品目別の課題

津堅島において主に栽培が計画されているニンジン、カボチャ、ニンニク、タマネギ、オクラ、エダマメ、スイートコーンの各種の課題を整理すると表 6-1 のとおりとなります。今後は栽培段階別、1次・2次加工段階の各種の課題を解決するように取り組んでいくことが求められます。

表 6-1 品目別の課題

品目		ニンジン	カボチャ	ニンニク	タマネギ	オクラ	エダマメ	スイートコーン
農業	①土づくり・深耕・砕土・整地等	機械等による省力化が必要である。						
	②播種・植付	効率的で発芽率の高い播種方法の確立が必要である。		機械化による省力化が必要である。				
	③中耕・除草・培土・追肥・病害虫管理	機械等による省力化が必要である。						
	④収穫・出荷	機械等による省力化が必要である。また、収穫かごの運搬や荷台への積み込み時に力作業が必要である。					機械等による省力化が必要である。	
	⑤洗浄、乾燥	機械等による省力化が必要である。						
	⑥袋詰め、梱包	機械等による省力化が必要である。						
	⑦貯蔵	出荷調整や加工品開発への取組に向けて貯蔵施設が必要である。						
1次・2次加工	⑧1・2次加工	規格外品等の有効活用に向けて1次、2次加工施設の整備が必要である。						
	⑨高付加価値化、津堅島全体のブランド化	「津堅ニンジン」として沖縄県内での一定のブランド評価がなされているが、県外や他の品目も合わせて津堅ブランド確立への取組が必要である。						

短期的に取り組むべき課題

中期的に取り組むべき課題

# 第3章 目標像・基本方向・施策展開の基本方針 および施策内容

## 1 目標像

現在の津堅島においては農業のみの収入で生活していくことが難しい状況になっているため、島を出ていく、または島から出ていった人やその子孫も島に戻ってくるできない状況にあります。そのためには、農機等を利用して効率的に農業を行い、反収や秀品率を高くして収益を大きくしていくことが求められます。また、津堅島で主に栽培されているニンジンが秋季から春季までが中心的な作付けですが、春季から秋季にかけても何らかの作物を栽培し、収入の拡大に取り組むことも重要です。将来的には、島全体の農地で年間を通して何等かの作物等が栽培されるとともに、規格外品等については、加工・販売することで、農業収入を増やしていく取り組みも必要となります。

農業活動に加え、観光業等との連携により農業体験等による副収入を得るための活動にも取り組むことが求められています。また、津堅島には綺麗な海や歴史・文化、美味しい農産物、海産物等、豊かな観光資源があり、民間企業等との連携・協創による付加価値の高いツーリズム事業等により全国・海外から憧れられる島づくりに取り組んでいける可能性を秘めています。

このようなことから津堅島の目標像として下に示す3つを掲げます。

### ■ 目標像

目標像1：農業で生計が立てられ、住み続けられる津堅島

目標像2：周年、島全体の農地で作物が青々と生育している津堅島

目標像3：全国・海外から憧れられる津堅島

## 2 基本方向

目標像を達成するための基本方向1として、農業を中心とした収入の安定と拡大を図るために、機械化等による省力化した農業を推進するとともに、農地の集積・集約化を図り、効率化した営農を行うことで儲かる農業を達成します。加工品等の開発・販売に取り組むとともに、農業体験等の観光業等との連携を図るなど、収入の拡大と多様化を推進します。

基本方向2として、付加価値を高め島全体をブランド化するために、島の資源とネットワークを利活用し付加価値を高め、県内、県外、海外から一度は行きたい・滞在したいと憧れられる島づくりに取り組みます。

### ■ 基本方向

#### 基本方向1：【農業を中心とした収入の安定と拡大】

機械化等による省力化した農業を推進するとともに、農地の集積・集約化を図り、効率化した営農を行うことで儲かる農業を達成します。加工品等の開発・販売に取り組むとともに、農業体験等の観光業等との連携を図るなど、収入の拡大と多様化を推進します。

#### 基本方向2：【付加価値を高め島全体をブランド化】

島の資源とネットワークを利活用し付加価値を高め、県内、県外、海外から一度は行きたい・滞在したいと憧れられる島づくりに取り組みます。

### 3 施策展開の基本方針および施策内容

重点課題に挙げた4つの課題を施策展開の基本方針として設定しました。基本方針1が効率的・持続的な農業基盤環境の整備、基本方針2が収入の拡大と多様化、基本方針3が観光業等との連携、基本方針4が憧れられる島づくりとして設定します。

図3-1にはうるま市農業振興ビジョンの基本理念・目標像・基本方向・施策展開の基本方針および施策内容の体系を示します。

■ 施策展開の基本方針および施策内容	
基本方針1 効率的・持続的な農業基盤環境の整備	①農機等の整備、支援 ②堆肥等の資機材の運搬費補助 ③農地の集積・集約化の支援 ④耕作放棄地の発生防止と開墾支援 ⑤キリコ等のかん水器具への補助・助成 ⑥配水路や給水栓の整備 ⑦農業用水の確保 ⑧ハウス等の施設栽培の推進 ⑨担い手等の育成・支援
基本方針2 収入の拡大と多様化	①収益性の高い品目による多品目栽培 ②貯蔵・加工施設の整備 ③規格外品等による加工品開発 ④生鮮品と加工品の販路開拓 ⑤加工品の販売・マーケティング活動 ⑥津堅ブランド作りと普及活動
基本方針3 観光業等との連携	①ホテルや旅行代理店等と連携した農業体験等の商品作り ②ガイドの養成 ③島内食材を利用した飲食メニュー作り ④観光業等との連携
基本方針4 憧れられる島づくり	①観光インフラ改修および整備 ②民間既存事業者のソフト・ハード高質化等への支援 ③民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備・受入れ体制整備

**■うるま市農業振興ビジョンの基本理念**  
 地域で育てる彩り豊かで魅力あふれる うるま市農業  
 ～農家・市民の豊かさを目指して 個性ある農業への挑戦～

地域の特性を生かした多様なうるま市農業を、農家、市民が守り、育て、  
 次世代に受け継いでいける個性豊かな農業を実現します

**■目標像**

- 目標像1：農業で生計が立てられ、住み続けられる津堅島  
目標像2：周年、島全体の農地で作物が青々と生育している津堅島  
目標像3：全国・海外から憧れられる津堅島

**■基本方向**

基本方向1：【農業を中心とした収入の安定と拡大】

機械化等による省力化した農業を推進するとともに、農地の集積・集約化を図り、効率化した営農を行うことで儲かる農業を達成します。加工品等の開発・販売に取り組むとともに、農業体験等の観光業等との連携を図るなど、収入の拡大と多様化を推進します。

基本方向2：【付加価値を高め島全体をブランド化】

島の資源とネットワークを利活用し付加価値を高め、県内、県外、海外から一度は行きたい・滞在したいと憧れられる島づくりに取り組みます。

**■施策展開の基本方針および施策内容**

<p align="center"><b>基本方針1</b> 効率的・持続的な農業基盤環境の整備</p>	<p>①農機等の整備、支援 ②堆肥等の資機材の運搬費補助 ③農地の集積・集約化の支援 ④耕作放棄地の発生防止と開墾支援 ⑤キリコ等のかん水器具への補助・助成 ⑥配水路や給水栓の整備 ⑦農業用水の確保 ⑧ハウス等の施設栽培の推進 ⑨担い手等の育成・支援</p>
<p align="center"><b>基本方針2</b> 収入の拡大と多様化</p>	<p>①収益性の高い品目による多品目栽培 ②貯蔵・加工施設の整備 ③規格外品等による加工品開発 ④生鮮品と加工品の販路開拓 ⑤加工品の販売・マーケティング活動 ⑥津堅ブランド作りと普及活動</p>
<p align="center"><b>基本方針3</b> 観光業等との連携</p>	<p>①ホテルや旅行代理店等と連携した農業体験等の商品作り ②ガイドの養成 ③島内食材を利用した飲食メニュー作り ④観光業等との連携</p>
<p align="center"><b>基本方針4</b> 憧れられる島づくり</p>	<p>①観光インフラ改修および整備 ②民間既存事業者のソフト・ハード高質化等への支援 ③民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備・受入れ体制整備</p>

図 3-1 基本理念・目標像・基本方向・施策展開の基本方針および施策内容の体系

## 4 施策内容

重点課題に挙げた4つの課題を施策展開の基本方針として設定しました。基本方針1が効率的・持続的な農業基盤環境、基本方針2が収入の拡大と多様化、基本方針3が観光業等との連携、基本方針4が憧れられる島づくりになります。それらについて以下に施策内容を説明します。

### (1) 基本方針1：効率的・持続的な農業基盤環境の整備

#### ①農機等の整備、支援

作物の栽培工程は手作業で行うため過重労働となっています。また、農家の高齢化が進んでいることから、植え付けから出荷までの作業工程において農作業の軽減化に向けた技術の導入や機械化の促進を図ります。

津堅島で生産量の多い品目に関しては、関連する農業機械の整備を進め農機等のレンタルを行います。具体的には多くの農家が必要としている特殊農業機械を市役所や生産組合が整備し、レンタルすることを薦め、効率的な運用を図ります。また、農家が特殊農業機械を使う農作業を委託する場合、費用負担の軽減を検討します。



写真 4-1(1) 導入されたニンジン収穫機

#### ②堆肥等の資機材の運搬費補助

津堅島では畜産業が行われていないため、堆肥等の投入が容易には行えず、土づくりが十分に行えない状況にあります。堆肥や資機材の運搬費用は農業経営を圧迫しているため、今後は資機材等の運搬や収穫物の運搬費等についての支援を検討していきます。



写真 4-1(2) 資機材等や出荷物を運搬するフェリーがに

### ③農地の集積・集約化の支援

2号ため池の完成、1号ため池の漏水工事やファームポンドの整備、配水路の敷設、給水栓の設置等の事業が完了すると営農環境が飛躍的に向上するため、将来的には農地の借入を希望する農家が市村内外に多く現れる可能性があります。貸与希望の申し出については島内の中心的な経営体や後継者、新規就農者を優先に斡旋を行います。

また、農地の集積・集約化を図っていく際には、農作業の効率化を図る観点から担い手の農地に近接する地域を中心に荒廃農地解消重点化エリアを設定するなどして取り組んでいきます。

### ④耕作放棄地の発生防止と開墾支援

市広報誌やホームページ等で、耕作放棄地の発生防止や利用促進を促すための情報を継続的に発信するとともに、農業委員会が毎年実施している農地利用状況及び意向調査に合わせて耕作の指導を行うとともに耕作放棄地の所有者には貸与制度の説明を行っていきます。

また、国等の事業を活用して荒廃農地を解消し、農地中間管理機構により大規模な農地を管理できる法人や地域の担い手へ集積・集約化を行い、荒廃農地の再発リスクを低減するように取り組んでいきます。



写真 4-1(3) 耕作放棄地の解消看板（左）とチェーンソーや重機で再生された農地（右）

### ⑤キリコ等のかん水器具への補助・助成

2号ため池の完成と仮設排水路・仮設給水栓の整備により、農業用水を利用する希望者が大幅に増加しているものの、高齢農業者等はキリコ等のかん水器具の導入を農業経営の継続年数の側面等から躊躇する傾向がみられます。キリコ等の導入は限られた農業用水を節水する効果もあることに加え、農産物生産量を拡大する観点からも重要な資機材と言えます。そのため、キリコ等のかん水器具への補助・助成等について検討していきます。



写真 4-1(4) キリコによる散水状況

## ⑥配水路や給水栓の整備

農業にとってかんがい施設は収量と秀品率の向上の観点から非常に重要な生産基盤です。農業者の各農地まで排水路や給水栓を設置し、農作業の効率化を図ることが重要です。そのため、国や県等と連携し、排水路や給水栓の整備を図っていきます。



写真 4-1 (5) 仮設排水路の敷設状況

## ⑦農業用水の確保

農機等の整備や2号ため池の完成、仮設排水路・仮設給水栓の整備等でニンジン等の作物を栽培する農家が農業用水を積極的に利用するようになってきました。冬季の渇水と相まって農業用水が不足する傾向にあるため、1号ため池の漏水工事の早期完成が期待されています。今後は荒廃農地等の空間を利用した貯水等、あらゆる手段を検討し、農業用水の確保に努めます。また、農業者全員が公平に農業用水を利用できるように利用ルールの策定と利用ルールの厳守に向けて管理体制の構築に向けても取り組みを進めます。



写真 4-1 (6) 2号ため池

## ⑧ハウス等の施設栽培の推進

露地栽培の農作物は台風や冬季の季節風、豪雨などによる被害が発生します。そのため、自然災害の影響が軽減され、安定的な農作物の栽培が可能なビニールハウス等の整備を推進し、生産基盤を強化します。また、施設整備に関する補助等の情報についてホームページや市の広報誌等による発信、うるま市担当者やJAの営農指導員等により農家負担の説明を行い、補助事業を活用した施

設整備を促します。

#### ⑨担い手等の育成・支援

津堅島民、農業者、J A、農業委員会、市など農業に関わる多様な関係者や関係機関が連携して新規就農者の募集・呼びかけ等を行い、津堅島で農業に従事する人材を発掘していきます。農業に興味を持つ新規就農希望者や他産業等の定年退職者で就農を希望する定年就農者等がいる際は、受け入れ農家の紹介、農地の確保等、官民連携して就農まで支援する取り組みを進めます。

栽培に必要な技術や知識を学ぶため農業の実地研修や技術講習会を開催し、農業技術の向上と人材育成に取り組みます。具体的には、J Aの営農指導員、県の普及指導員が中心となって栽培技術の指導を行っていくとともに、新規就農希望者に対しては農業の基礎から学べる環境や人材紹介を行っていきます。

また、本農業再生・活性化プランで作成する営農モデルを事例に経営のシミュレーションを行うなどして、円滑に就農・農業経営が行えるよう支援します。

## (2) 基本方針2：収入の拡大と多様化

### ①収益性の高い品目による多品目栽培

津堅島の現状における主要な品目は秋季から冬季に栽培するニンジンが中心であるが、ニンジンも含め、収益性の高い品目を複数検討し、安定期・持続的な農業経営を行えるように支援します。冬季のみではなく、春季から夏季にかけてもオクラ等の栽培可能な品目を検討し、年間を通じた他品目栽培へ取り組めるように支援します。



写真 4-2(1) ニンジンの栽培状況

写真 4-2(2) オクラの栽培状況

### ②貯蔵・加工施設等の整備

市場から安定的な出荷が求められることから、出荷調整が行えるよう貯蔵施設等の整備に向けて取り組みます。また、ニンジン等は今後、生産量が大幅に向上する可能性があり、同時に規格外品等も多く出てきます。それらを有効活用するために、加工施設を整備していきます。

また、ニンジン等の大量に生産される品目については、作業の分業や軽減化に向けて洗浄・選別・袋詰めを行えるように機械整備を図るとともに作業者を島内・島外から確保し効率化します。そうすることで、農家では栽培・収穫に専念し、作業分担することで効率性を高めます。

### ③規格外品等による加工品開発

規格外農産物を活用できるよう加工品開発に取り組みます。加工品の開発にあたっては島内農業関係者や一般の女性、学校関係者、市内販売店など多様な人材が連携した取り組みを行います。



写真 4-2(3) カボチャとニンジンの加工品



写真 4-2(4) ニンジンパウダーとサイダー

#### ④生鮮品と加工品の販路開拓

出荷量の多い品目等については、流通業者と連携のもと多様な販路を開拓し、契約栽培等により高値で販売できるよう取り組みます。

#### ⑤加工品の販売・マーケティング活動

機械化と農業用水の利用によりニンジン等は生産量が急増していくことが予想され、それに伴って一定割合の規格外品が生じます。規格外品を加工し、安定的に販売することで農家所得を高めていくことが重要です。そのために、市場調査・製造・輸送・保管・販売・宣伝などの全過程にわたって行うマーケティング活動を進めていきます。



写真 4-2(5) 加工品の販売状況

#### ⑥津堅ブランド作りと普及活動

津堅ニンジンには、沖縄本島において知名度があり、一定程度のブランド化がなされているものの、十分な付加価値が付いているとは言い難い現状にあります。津堅ニンジンのみならず、他の品目についても機能性等の調査を行い、他地域の品目と差別化を図ることで、津堅島農産物のブランド化を進めることと、その普及活動を行っていきます。

### (3) 基本方針3：観光業等との連携

#### ①ホテルや旅行代理店等と連携した農業体験等の商品作り

農業者の所得が増加することを目的に、農業者の「ガイド収入」、「飲食収入」、「収穫体験収入」、「販売収入」が極大化するようにホテルや旅行代理店等と連携したツアー商品を造成します。

また、今後整備されていく加工場等には、「加工体験」、「試食体験」などの観光プログラムにも活用できる諸室や、決定的に不足しているトイレなど、農業体験観光のインフラの一部を担える機能も併せて整備していくことを検討します。

農業体験観光専用の圃場の整備についても検討し、生産活動を邪魔せず積極的に農業体験観光を受け入れるインフラの整備を推進します。



写真 4-3(1) 農業収穫体験の状況

#### ②ガイドの養成

収穫体験を含む「陸ツアー」について、安定的な催行ができるよう人材育成や組織体制を構築します。



写真 4-3(2) 地元ガイドによる歓迎お出迎え



写真 4-2(3) 地元ガイドによる解説

### ③島内食材を利用した飲食メニュー作り

津堅島らしさや、島の農産物・海産物を活用したランチメニュー、ディナーメニューを検討し、客単価をアップさせることで飲食収入を増加させます。また、食事をする場所についても屋外の海が見えるテラスや沖縄の島嶼部らしい内装の空間づくりなどについて取り組むことで付加価値を向上させ、収益を大きくできるように取り組みます。



写真 4-3(4) 農業収穫体験の状況

### ④観光業等との連携

農家所得の増加に持続的につなげるためには、ツアー参加者の満足度が高くなるようなツアー商品を造成しなければなりません。そのためには、農業体験観光を核とした6次化推進に向けて「海と陸が一体となったプログラム開発」、「農業者、漁業者、住民、観光事業者が一体となったハードとソフトの体制整備」に取り組みます。



写真 4-3(5) 島の人材による島の観光資源ツアー



写真 4-3(6) 島の食材による飲食体験

#### (4) 基本方針4：憧れられる島づくり

##### ①観光インフラ改修および整備

観光案内看板やホームページ、散策路、展望台などが整備されていない、または老朽化しているなどして観光資源として機能していない状況にあります。観光ツアーメニューと関係するものから整備を進めていきます。



写真 4-4(1) 塗装がはがれたニンジン展望台

##### ②民間既存事業者のソフト・ハード高質化等への支援

飲食店や宿泊業者等は従来の客層をターゲットにした経営であったが、今後は島への経済効果が高いと考えられる「健康に関心が高く沖縄リピーターで県外・海外居住の30～60歳代女性とお連れさま」等の富裕層をターゲットにして島全体の所得向上を図ることが重要となります。そのため、民間既存事業者のソフト・ハード高質化等へ向けた支援について検討していきます。

##### ③民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備・受入れ体制整備

津堅島には海や自然、農業など通年展開できる観光商品を作ることができ、また魅力的な観光資源が存在します。そのため、島内・島外の観光業者や農業従事者以外とも連携・協創してして収入の拡大と多様化を図ることが期待されます。一方、海外からの体験ツーリズムへの需要が高まっており、津堅島へ投資している企業もツーリズム等多様な分野の事業を行っています。今後は、高級リゾート地としての津堅島のイメージ形成を視野に入れながら、ツーリズム拠点整備・受入れ体制の整備を検討していきます。

## 5 品目別の施策内容

主に栽培が計画されているニンジン、カボチャ、ニンニク、タマネギ、オクラ、エダマメ、スイートコーンの各種の課題を解決するための導入機械、施設、取り組み内容を表5-1に示します。

表5-1 品目別の施策内容

品目		ニンジン	カボチャ	ニンニク	タマネギ	オクラ	エダマメ	スイートコーン
目標 (令和3年)	栽培面積	10.0ha	2.0ha	0.4ha	2.0ha	0.2ha	0.5ha	0.5ha
	反収	2.5t/10a	0.9t/10a	1.0t/10a	2.0t/10a	0.8t/10a	0.5t/10a	0.8t/10a
	収量	250.0t	36.0t	4.0t	40.0t	1.6t	2.5t	4.0t
	備考		二期作					
農業	①土づくり・深耕・砕土・整地等	1.トラクター70馬力 2.トラクター33馬力 3.ストローチョッパー 4.ディスクローター 5.ロータリー 6.マルチロータリー						
	②播種・植付			7.ニンニク植付機	8.タマネギ苗移植機			
	③中耕・除草・培土・追肥・病害虫管理	9.ミッドマウンド管理作業車 (中耕・除草・培土・追肥) 10.ドローン(病害虫管理)						
	④収穫・出荷	11.ニンジン収穫機 15.アシストスーツ	12.運搬機(カボチャ収穫機) 15.アシストスーツ	13.ニンニク収穫機 15.アシストスーツ	14.タマネギ収穫機 15.アシストスーツ	15.アシストスーツ		
	⑤洗浄・乾燥	洗浄機や乾燥機を整備する。						
	⑥袋詰め、梱包	袋詰め機、梱包機等を整備する。						
	⑦貯蔵	貯蔵施設を整備する。						
1次・2次加工等	⑧1・2次加工	規格外品等の有効活用に向けて1次、2次加工施設を整備する						
	⑨高付加価値化、津堅島全体のブランド化	「津堅ニンジン」の一層のブランド化と、県外や他の品目も合わせて津堅ブランドの普及・確立へ取り組む。						

短期的に取り組むべき課題

中期的に取り組むべき課題

表5-2 作付体系計画

品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ニンジン						○		○		□		□	★
カボチャ	□	□				○	○		□	□	○		★二期作 (平張施設)
ニンニク	□							○					★
タマネギ	□						○						★
オクラ			□					□				○	
エダマメ	□	□									○		★
スイートコーン			□		□							○	★ 作型ずらし

○播種・植付 □収穫 ★一斉収穫

 植付前の畑づくり

 土壌づくり(緑肥)+換金できる農産物

## 6 目標値

5年後の令和6年度末における耕作面積、収穫量、新規就農者数の目標値を示しました。目標値は、耕作面積41.5ha、収穫量の合計値957.1t、新規就農者数は2名としました。

今後はこの目標値を達成するために、ロードマップに示しました工程に沿って各種の施策を展開することが求められます。

表 6-1 目標値

年度		令和元年度 (実測と予測)	令和6年度 目標値
耕作面積		27.8ha	41.5ha
収穫量	ニンジン	102.9t	700.0t
	カボチャ	71.2t	45.9t
	ニンニク	22.2t	22.0t
	タマネギ	1.7t	40.0t
	オクラ	1.0t	3.1t
	エダマメ	0.0t	2.5t
	スイートコーン	0.0t	4.0t
	甘藷	19.3t	21.0t
	その他	118.6t	118.6t
	合計	337.0t	957.1t
新規就農者数		0人	2名

注1：耕作面積や収穫量、販売額、新規就農者数は、営農モデルプランで検討した数値を引用しました。

注2：新規就農者数は、うるま市全体のこの5年の新規就農者数の平均値が13.2人であり、その1割強を津堅島が担うとして2名としました。

## 7 推進方針

### (1) 関係者の役割

本農業再生・活性化プランを達成するには、各施策について農業者、JA、役場、農業委員会、国・県、観光業者、市民等の関係者が下表に示す役割を主体的に担っていくとともに、関係者が連携していくことが求められます。

表 7-1 施策の役割分担

◎：中心的な実施者、○：実施者

施策展開の基本方針	施策内容	農業者	JA	市役所	農業委員会	国・県	観光業者等	市民等
基本方針1 効率的な農業基盤の整備	①農機等の整備、支援	○	◎	◎	○	○		
	②堆肥等の資機材の運搬費補助		○	◎		○		
	③農地の集積・集約化の支援	○		◎	◎	○		
	④耕作放棄地の開墾支援	○		◎	◎	○		
	⑤キリコ等のかん水器具への補助・助成	○	○	◎	○	○		
	⑥配水路や給水栓の整備	○		◎	○	○		
	⑦農業用水の確保(ファームポンド含む)	○		◎	○	○		
	⑧ハウス等の施設栽培の推進	○	◎	◎		○		
	⑨担い手等の育成・支援	◎	◎	◎	○	○		
基本方針2 収入の拡大と多様化	①収益性の高い品目による多品目栽培	○	◎	◎		○		
	②貯蔵・加工施設の整備	○	◎	◎		○		
	③規格外品等による加工品開発	○	○	◎		○		
	④生鮮品と加工品の販路開拓	○	◎	◎		○	◎	
	⑤加工品の販売・マーケティング活動	○	○	◎		○	◎	○
	⑥津堅ブランド作りと普及活動	○	○	◎		○	◎	○
基本方針3 観光業等との連携	①ホテルや旅行代理店等と連携した農業体験等の商品作り	○		◎		○	◎	○
	②ガイドの養成	○		◎		○	◎	○
	③島内食材を利用した飲食メニュー作り	○		◎		○	◎	○
	④観光業等との連携	○		◎		○	◎	
基本方針4 憧れられる島づくり	①観光インフラ改修および整備	○		◎		○	◎	
	②民間既存事業者等のソフト・ハード高質化支援	○		◎		○	◎	
	③民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備、受入れ体制整備	○		◎		○	◎	

### (2) 進行管理とフォローアップ

本農業再生・活性化プランを効果的に推進するためには、各施策が適切に取り組まれているかを定期的に確認・評価しながら進めることが重要です。また、農業に係わる多様な関係者が当事者意識を持って連携していくことが求められます。そこで、既存のうるま市津堅島農業振興協議会を継続的に開催し、年1回程度定期的に評価報告を行います。

なお、計画推進の評価は、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACT）を繰り返し行います。

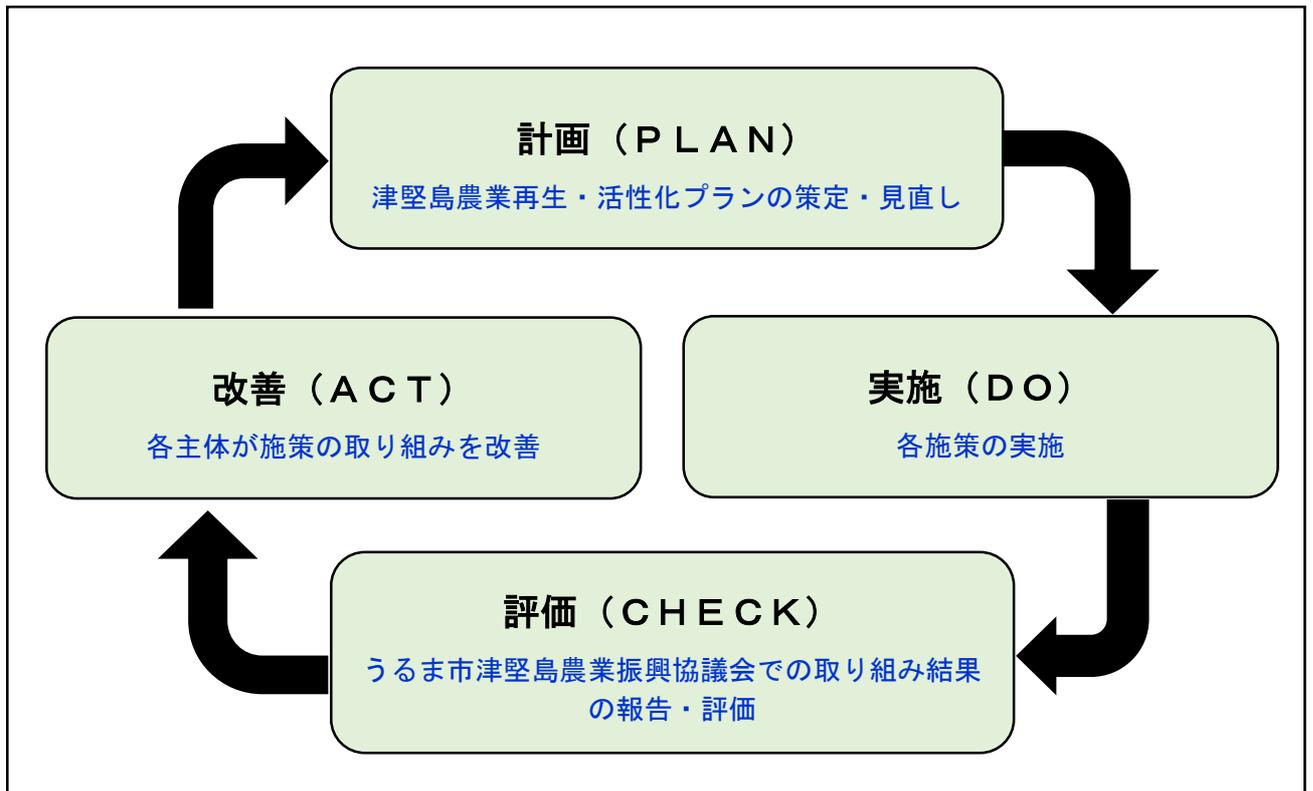


図 7-2 進行管理の方法

表 7-2 うるま市津堅島農業振興協議会の概要

構成	農業者、津堅自治会、JA、市役所、農業委員会、県等
時期	毎年5月等
内容	①前年度の取り組み結果の実績報告 ②今年度の取り組み計画の報告 ③意見・情報交換

## 8 津堅島農業再生・活性化プランのロードマップ

津堅島農業再生・活性化プランのロードマップを次に示します。

施策展開の基本方針	施策内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基本方針1： 効率的な農業基盤の整備	①農機等の整備、支援	■				
	②堆肥等の資機材の運搬費補助		■			
	③農地の集積・集約化の支援	■				
	④耕作放棄地の開墾支援	■				
	⑤キリコ等のかん水器具への補助・助成	■				
	⑥配水路や給水栓の整備	■				
	⑦農業用水の確保(ファームボンド含む)	■				
	⑧ハウス等の施設栽培の推進	■				
	⑨担い手等の育成・支援	■				
基本方針2： 収入の拡大と多様化	①収益性の高い品目による多品目栽培	■				
	②貯蔵・加工施設の整備			■		
	③規格外品等による加工品開発	■				
	④生鮮品と加工品の販路開拓		■			
	⑤加工品の販売・マーケティング活動			■		
	⑥津堅ブランド作りと普及活動		■			
基本方針3： 観光業等との連携	①ホテルや旅行代理店等と連携した農業体験等の商品作り	■				
	②ガイドの養成		■			
	③島内食材を利用した飲食メニュー作り	■				
	④観光業等との連携	■				
基本方針4： 憧れられる島づくり	①観光インフラ改修および整備			■		
	②民間既存事業者等のソフト・ハード高質化支援				■	
	③民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備、受入れ体制整備				■	